

# ライフコースに関する希望と現実の一致度と Well-being の関係について—大分県在住の女性に焦点を当てて—

○中里直樹<sup>1</sup>・井藤本真理乃<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>大分大学福祉健康科学部, <sup>2</sup>大分県信用組合)

## 目的

大分県は子育て環境整備事業に定評があり、例えば子育てと仕事の両立を求める女性に対するものなど、希望するライフコースを選択しやすい環境や支援が整っていることが窺える(大分県, 2020)。さらに、男性側(夫・父親)への啓蒙活動により、女性に効果的なサポートをもたらすための事業も推進されている(大分県, 2020)。その一方で、人口や出生数の減少が課題となっており、県の事業の魅力が十分に伝わっておらず、県外流出が生じている可能性も考えられる。

先行研究では、生き方を自由に選択出来ていることは Well-being の重要規定因だと示されてきた(e.g., Nakazato et al., 2017)。また、周囲からのサポートと現実のライフコースとの関連性(呉湘, 2016)、及びソーシャル・サポートが個人の自由を後押しして Well-being の高さに好影響を及ぼす可能性(中里・森永, 2017)が示されている。

そこで本研究では、大分県在住の女性のデータにおいても、希望と現実のライフコースの一致度が Well-being を予測するか、及び周囲からのソーシャル・サポートが希望と現実の一致度の予測因となっているか、について検討した。そのことを通して、県の事業の方向性についてデータをもって検証し、課題の改善に繋げることを目指す。

## 方法

<調査方法> 調査会社に委託の上、20~49歳の大分県在住の社会人・専業主婦の女性100名を対象に Web 調査を実施した。<質問項目> Well-being 及びソーシャル・サポートの測定には、人生満足度尺度(Diener et al., 1985)と中村・浦(2000)の尺度を用いた。ライフコースの希望と現実の一致度については、以下の(a)と(b)の2つの方法を用いて測定し、その合成得点を指標として用いた。(a)ライフコースの型6つ(e.g., 就労継続型, 専業主婦型, 子育て後再就労型)の中から、就職当時もしくは最終学歴修了時の希望を回答してもらい、続いて現実との一致度を6件法で回答してもらった。(b)中里(2017)による自由選択の感覚尺度を、

女性のライフコース選択の自由度の測定に合致するように改変して用いた(13項目, 7件法)。

<分析手順> 項目平均値を算出した後、媒介分析と調整媒介分析を行った(ブートストラップ法)。

## 結果

媒介分析の結果、ソーシャル・サポートからライフコースの希望と現実の一致度( $\beta = .42$ , 99% CI [.12, .62]), 及びライフコースの希望と現実の一致度から Well-being に対して比較的大きな効果が認められ( $\beta = .45$ , 99% CI [.26, .64]), ソーシャル・サポートから Well-being への間接効果も有意だと示された(Figure 1 参照; 間接効果:  $\beta = .19$ , 99% CI [.06, .34]; 総合効果:  $\beta = .56$ , 99% CI [.30, .75])。また、調整媒介分析の結果、仕事を継続するライフコースを希望していた女性において当該プロセスはより顕著に認められ(間接効果:  $b = .30$ , 99% CI [.12, .53],  $\beta = .26$ )、特にソーシャル・サポートから希望と現実の一致度に及ぼす効果が高いと示された( $b = .36$ , 95% CI [.23, .50],  $\beta = .52$ )。

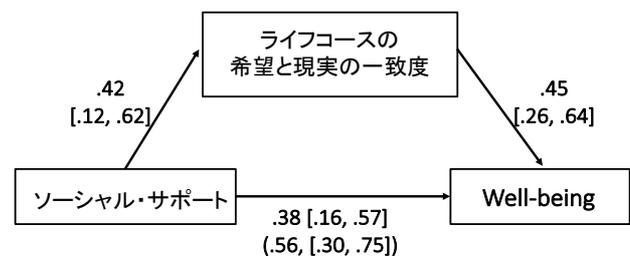


Figure 1 ライフコースの希望と現実の一致度を介したソーシャル・サポートから Well-being への効果

注) 丸括弧内は総合効果を鉤括弧内は 99%信頼区間を示す。

## 考察

本研究では大分県の女性においても、十分なサポートを受けていることでライフコースを自由に選択・実現しやすくなり、それによって希望と現実のライフコースの一致がもたらされ、結果的に Well-being の高さを予測することが示された。一方で、ライフコースの希望と現実の一致度の平均値は測度の中間点よりやや下であり( $M = 3.27$ ,  $SD = 1.49$ )、この点は県の課題と言えるだろう。今後は他県との比較検討も必要だと考えられる。

注) 本研究は第二発表者の卒業研究データの再分析に基づく。